



南林間地区たすけあいセンター（大和市）

高齢者を地域で支えるたすけあい

■高齢者が安心して暮らせる町を目指して

南林間地区たすけあいセンターは、小田急線南林間駅からすぐの場所にあり、週3回10時から15時まで開いています。

この地域はバブル前後に一気に人口が増え、急速に高齢化が進んでいたことから、2017年、大和市から社会福祉協議会（社協）に「支援が必要な方と支援する方を結び付ける場所をつかって欲しい」と相談がありま

した。そこで、南林間地区の協議会長だったくつかけ だいしやう沓掛 大兼さんを中心となって、社協のほか、自治会や民生委員、老人クラブなどが連携して、南林間地区たすけあい協議会を設立し、個別支援事業や介助予防事業なども行う、たすけあいセンターを開設しました。

■お互いのできることで支え合う

ここでの特徴の一つは、お互いのできることで支え合っていることです。例えば、足腰が弱

く買い物のサポートをお願いしている方がいますが、この方は、人と話すことが好きなので、お話し相手のボランティアに登録しています。また、有償であることも特徴です。感謝の気持ちを伝える手段として、少額の報酬を受け渡してもらっています。これにより頼む方も頼まれる方もすっきりして個別支援を受けることができているそうです。このボランティアは大人気で、2018年度は600件近くの支え



の拠点

合い、交流が生まれています。

また、健康マージャン教室も大人気で、いつも笑い声に包まれています。初めて会う人が大半ですが、この教室をきっかけに仲良くなってカラオケに行ったりクリスマス会を開いたりしているそうです。また、月2回開催する健康測定コーナーや健康講座も人気が高く、ここから新たなコミュニティが生まれています。

一言アドバイス

地域の事情にあった
コミュニティを
目指すこと。



南林間地区
たすけあい協議会
くつかけ だいしやう
副会長 沓掛 大兼さん

成功のコツ

- ・地区内の団体と広く連携する
- ・ボランティア登録のハードルを下げる
- ・ボランティアは少額でも有償にする

■活動を広げる工夫は連携とボランティア募集

センターでは活動を広げるために様々な工夫をしています。その一つが地域に関わる民間事業者やNPOとの連携です。例えば、健康講座は地域のスポーツクラブを借りて実施しています。また、障がい者を支援しているコーヒー豆焙煎業者から淹れたてのコーヒーを購入し、センター内のカフェで提供していますが、この味を求めにわざわざ来る人もいます。

こうした取組みを持続可能にするために欠かせないボラン

ティア募集では、地域のNPOの協力により、チラシの作成・ポスティングを行っています。ボランティアの申込み用紙が一工夫されていて、ボランティアをしたいと思う人の要望に細かく応えられる形になっていて、140名のボランティアの中には19歳の大学生まで登録してくれているそうです。さらに、ボランティア同士でハイキングに行くなど、新たなつながりも生まれています。

南林間地区たすけあいセンターは、これからも地域に人と人のつながりを生みつけていきます。